

1 いじめの未然防止について

いじめは、どの子どもにも、どの学校にも起こりうることを踏まえ、より根本的ないじめの問題克服のためには、すべての児童を対象としたいじめの未然防止の観点が必要であり、いじめを生まない土壌をつくる継続的な取組を行う。

そのためには、教育活動全体を通じ、全ての児童に「いじめは、人間として絶対に許されない卑怯な行為である。」ことへの理解を促し、児童の豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度等、心の通う人間関係を構築する素地を養っていく。

また、いじめの背景にあるストレス等の要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力を育む。さらに未然防止の観点から全ての児童が安心して自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりも行っていく。

加えて、いじめの問題への取組の重要性について地域や保護者全体に認識を広め、地域・家庭と一体となって取組を推進するための普及啓発を行っていく。

1 確かな学力を身につけさせるための指導の充実

学習規律や学び方を確立させ、自ら進んでよく考え学習する習慣を身につけさせるための授業改善を図り、児童相互及び児童と教師の信頼関係を築きながら自己有用感を高める。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3

職員学校評価アンケート → 1・2・6・7・12・15・17

2 思いやりのある豊かな心を育てるための指導の充実

道徳の授業を中心としながら教育活動全体を通して人権感覚を磨き、相手のことを思いやる豊かな心を育む教育を推進していく。特に他者との関係づくり、居場所づくりを通して人のためになっている、認められているという自己有用感を持たせる。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 3・4・6・8・9・10・11・13・14・16

3 開発的な生徒指導の充実

正しい身なり、心を込めたあいさつ、元気のよい返事を継続指導しながら善悪の判断をしっかりと持たせ、きまりやルール、マナーを守ることを指導していく。また、「佐々っ子ゆめプラン」の啓発実現にも努力する。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11
13・14・15・16・17・19

4 自主的、自発的活動を育む特別活動の充実

望ましい集団活動（学級・異年齢集団等）を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てていく。また、自己の生き方についての考えを深めながら自己を生かす能力を育てていく。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 2・3・5・8・13・14・16・17・18・20

5 健康な心と身体を育む教育の充実

児童一人一人が心身の健康を自覚し、日々の生活の中で健康な生活習慣を身につけるようにする。そのために体力向上活動及び食育の推進、保健・安全教育の充実を図っていく。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 1・2・3・13・15・16

6 学校に行きがいのある教育環境の充実

児童一人一人が楽しく学校に行きたくなるような環境づくり（花壇の整備、校内掲示板の活用、その他の施設設備）や清掃活動等を通して、望ましい他との関わり方を身につけさせる。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11
12・13・14・15・16・17・18

7 児童理解のための校内研修の充実

県教育センター等の研修会参加や心理や福祉の専門家等を活用した校内研修を実施し、カウンセリング能力等の向上を図る。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 7・8・9・10・11・12

8 保護者や地域との連携充実

P T A活動や地域行事（子ども会活動）に参加する中で自己の役割と責任を果たし、多くの人に支えられて生きていることや集団の中に帰属していることを自覚するとともに感謝の気持ちを抱かせる。

【検証・評価】

児童生活アンケート → 1・2・3・4・5

職員学校評価アンケート → 5・14・16・19・20